

# 長崎県感染症発生動向調査速報（週報）

2024年第36週 2024年9月2日（月）～2024年9月8日（日）2024年9月12日作成

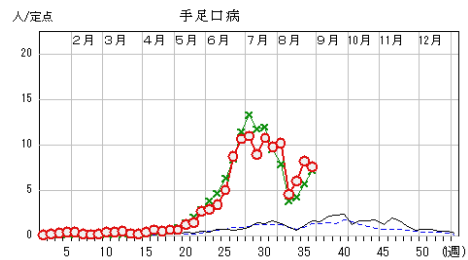
## ☆定点<sup>※</sup>報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

### （1）手足口病

第36週の報告数は334人で、前週より28人少なく、定点当たりの報告数は7.59であった。

年齢別では、1歳（101人）、2歳（66人）、3歳（42人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県南保健所（15.20）、県央保健所（12.14）、上五島保健所（10.00）であった。

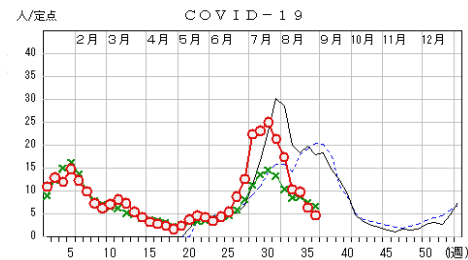


### （2）新型コロナウイルス感染症

第36週の報告数は328人で、前週より119人少なく、定点当たりの報告数は4.69であった。

年齢別では、30～39歳（41人）、70～79歳（39人）、60～69歳（37人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、対馬保健所（13.00）、上五島保健所（8.33）であった。

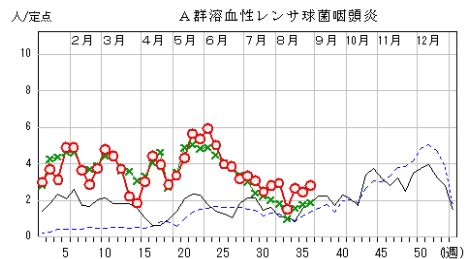


### （3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第36週の報告数は123人で、前週より15人多く、定点当たりの報告数は2.80であった。

年齢別では、5歳（19人）、10～14歳（18人）、6歳（16人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県南保健所（12.60）、対馬保健所（9.50）であった。



○ 当年(長崎県)      — 前年(長崎県)  
 × 当年(全国)      - - 前年(全国)

※インフルエンザ/COVID-19定点数：70、小児科定点数：44、眼科定点数：8、基幹定点数：12

## ☆上位3疾患の概要

### 【手足口病】

第36週の報告数は334人で、前週より28人少なく、定点当たり報告数は7.59でした。前週より減少しましたが、6月中旬より12週続けて警報レベルの報告数となっています。地区別にも、五島地区、壱岐地区、対馬地区をのぞく地区で警報レベルが継続しています。

本疾患は、口腔粘膜および四肢末端に現れる水疱性発疹を特徴とする乳幼児に多いウイルス性疾患です。感染経路は、糞口感染、飛沫感染で水疱内容液からも感染します。手洗い、うがいを励行し、感染防止に努めましょう。原因ウイルスの種類によっては手足口病とともに無菌性髄膜炎や脳炎を併発させることもありますので、早めに医療機関を受診しましょう。

【新型コロナウイルス感染症】

第36週の報告数は328人で、前週より119人少なく、定点当たり報告数は4.69でした。地区別にみると、すべての地区で前週より減少しましたが、対馬地区（13.00）、上五島地区（8.33）は他の地区より多くなっています。6週続けて減少していますが、今後も動向に注意しましょう。

本疾患の主な症状は、発熱、咳、全身倦怠感等の感冒様症状で、主に飛沫感染や接触感染により感染します。場面に応じたマスクの着用や手洗い、換気、三密の回避などの基本的な感染対策に努めましょう。

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

第36週の報告数は123人で、前週より15人多く、定点当たりの報告数は2.80でした。地区別にみると県南地区（12.60）、対馬地区（9.50）は、警報レベルの報告数となっています。今後も予防に努めましょう。

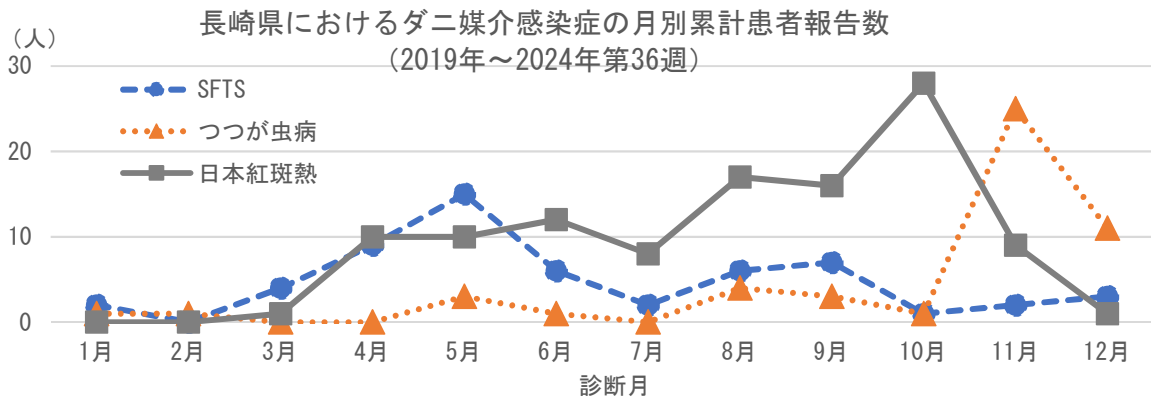
本疾患の好発年齢は5歳から15歳で、鼻汁、唾液中のA群溶血性レンサ球菌を含む飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。また、食品を介しての経口感染もあります。潜伏期間は約1日から4日で、突然の発熱（高熱）、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。症状がある場合は、早めに医療機関を受診するとともに、手洗いを励行し、感染防止に努めましょう。

☆トピックス：マダニやツツガムシの活動が活発な時期です。ご注意ください！

マダニ類やツツガムシ類は、野生動物が出没する環境に多く生息しているほか、民家の裏山、裏庭、畑やあぜ道などにも生息しています。マダニ類は、日本紅斑熱や重症熱性血小板減少症候群（SFTS）などを媒介し、ツツガムシ類はその名のとおりにつつが虫病を媒介します。

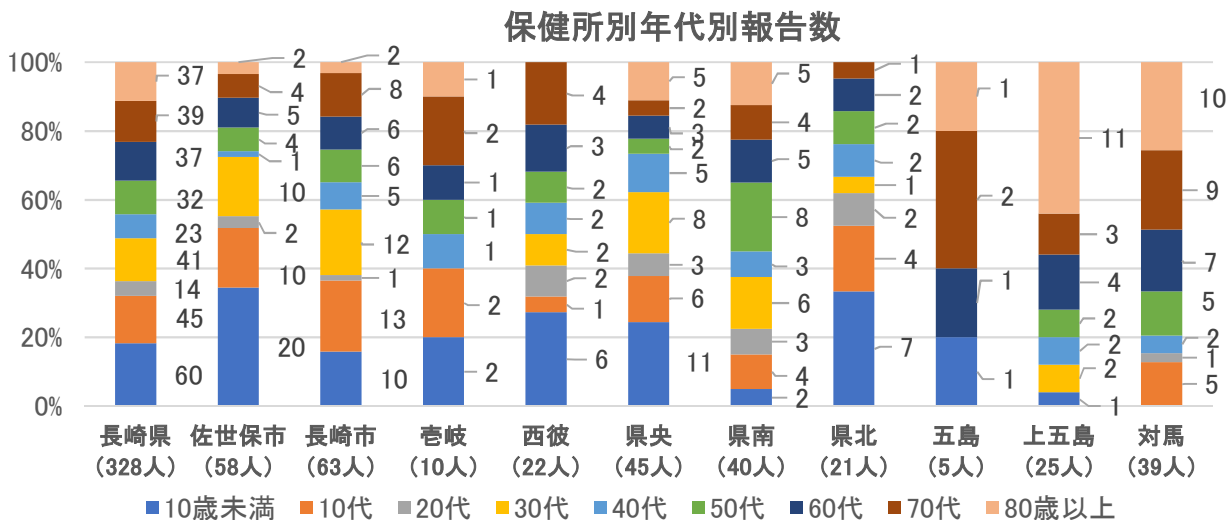
春から秋（3月から11月）にかけては、マダニ等の活動が活発になる時期です。

マダニ等が媒介する感染症の予防には、ダニに咬まれないことが重要です。野外で活動する際は、長袖、長ズボン、長靴を着用するなどして肌の露出を極力避け、マダニに有効な虫よけ剤を使用して感染防止に心がけましょう。



☆トピックス：新型コロナウイルス感染症に注意しましょう

新型コロナウイルス感染症の長崎県における第36週の定点当たり報告数は「4.69」で、6週続けて減少しました。報告数は減少が続いていますが、今後も場面に応じたマスクの着用や手洗い、換気、三密の回避などの基本的な感染対策に努めましょう。

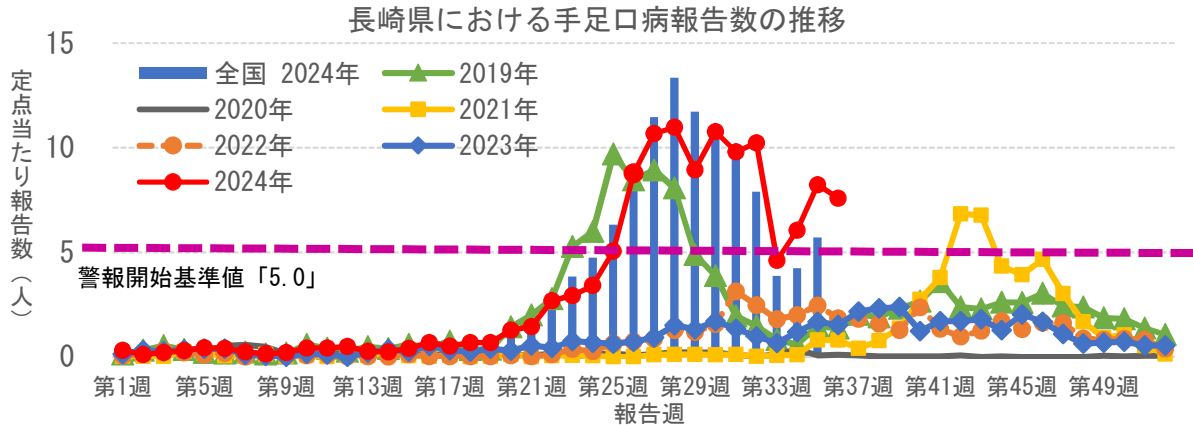


★トピックス：手足口病が流行しています

手足口病は、四肢および口腔内に水疱性の発疹を生じる疾患です。主として咳やくしゃみなどのしぶきを介した飛沫感染や、飛沫や便に含まれるウイルスが手指を介して口から侵入する接触感染により広がります。基本的には予後良好な疾患ですが、原因ウイルスによっては、中枢神経系合併症などのほか、心筋炎、急性弛緩性麻痺などの多彩な臨床症状を併発することがあります。

長崎県の第36週の定点当たり報告数は「7.59」で、警報レベルの報告数が12週間継続しています。地区別でも、10保健所のうち、五島、壱岐、対馬を除く7保健所で警報レベルの報告数となっています。年齢別では、5歳以下で9割を占めています。

今後も手洗い、うがいを励行し、感染防止に努め体調管理に気をつけましょう。

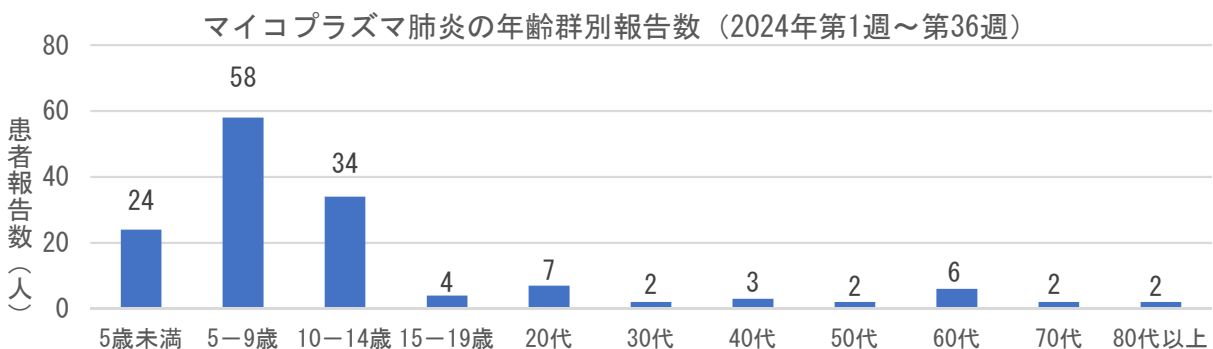
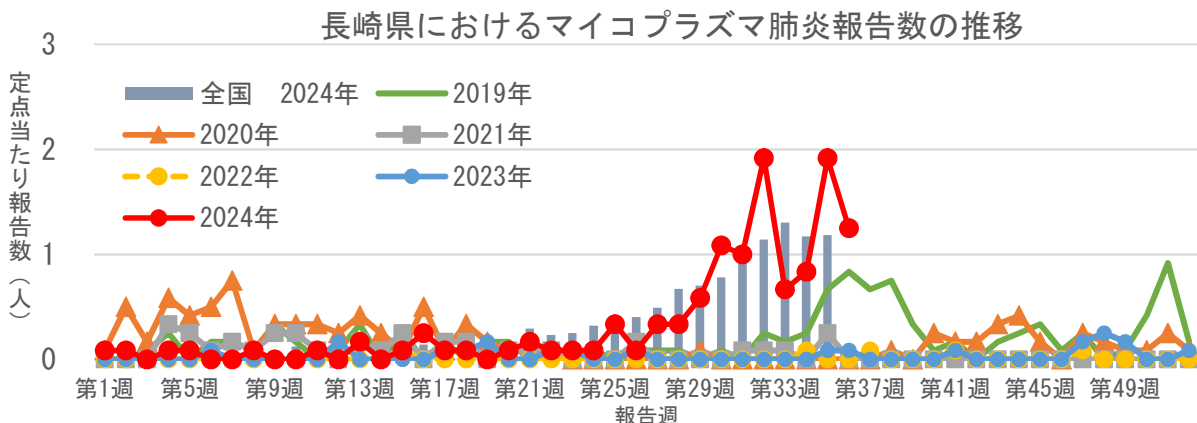


★トピックス：マイコプラズマ肺炎の報告数が増加しています

マイコプラズマ肺炎は、肺炎マイコプラズマという細菌による感染症です。全年齢で1年を通して報告があります。感染経路は、患者の咳やくしゃみを介した飛まつ感染や病原体が付着した手で口や鼻に触れることによる接触感染があります。2～3週間の潜伏期間の後、発熱、全身倦怠感、頭痛、咳などが見られます。咳は、解熱後も3～4週間続くことがあります。まれに重症化することや、無菌性髄膜炎、脳炎などの合併症がみられることもあります。

2024年は、7月中旬から報告数が増加し、第32、35週は過去5年で最多の定点当たり報告数となっています。地区別では、長崎、佐世保地区で多く報告が上がっています。年代別では10歳未満が最も多く、そのうち5～9歳で全体の4割を占めています。

予防には、手洗いやうがいを徹底することが大切です。咳が続く場合は、早めに医療機関を受診しましょう。



◆全数届出の感染症

2類感染症：結核 患者 男性（30代・1名、80代以上・1名）  
 無症状病原体保有者 男性（20代・1名） 女性（70代・1名）

3類感染症：報告なし

4類感染症：つつが虫病 患者 女性（20代・1名）

5類感染症(全数把握対象)：後天性免疫不全症候群 患者 男性（30代・1名）  
 薬剤耐性アシネトバクター感染症 患者 男性（60代・1名）

◆定点把握の対象となる5類感染症

(1) 疾病別・週別発生状況 (第31~36週、7/29~9/8)

疾患名	定点当たり患者数					
	31週 7/29~	32週 8/5~	33週 8/12~	34週 8/19~	35週 8/26~	36週 9/2~
インフルエンザ	0.23	0.16	0.13	0.27	0.21	0.06
新型コロナウイルス感染症	21.34	17.42	10.29	9.81	6.39	4.69
RSウイルス感染症	5.36	3.33	1.25	0.91	0.73	0.68
咽頭結膜熱	0.50	0.51	0.30	0.34	0.14	0.25
A群溶血性链球菌咽頭炎	2.80	2.95	1.52	2.66	2.45	2.80
感染性胃腸炎	0.98	1.56	0.57	0.98	1.25	1.14
水痘	0.11	0.02	0.09	0.07	0.07	0.02
手足口病	9.80	10.23	4.61	6.05	8.23	7.59
伝染性紅斑（リンゴ病）			0.02			
突発性発しん	0.23	0.21	0.23	0.30	0.30	0.41
ヘルパンギーナ	0.68	0.35	0.32	0.27	0.80	0.52
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）		0.12	0.02	0.02	0.14	0.02
急性出血性結膜炎			0.13			0.38
流行性角結膜炎	0.75		0.13	0.63	0.13	0.50
細菌性髄膜炎						
無菌性髄膜炎	0.08					0.25
マイコプラズマ肺炎	1.00	1.92	0.67	0.83	1.92	1.25
クラミジア肺炎（木嶋病は除く）						
感染性胃腸炎（ロタウイルス）						

(2) 疾病別・保健所管内別発生状況 (第36週、9/2~9/8) ※赤字：警報レベル、青字：注意報レベル

疾患名	定点当たり患者数（県・保健所管轄別）										
	県	佐世保市	長崎市	壱岐	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	対馬
インフルエンザ	0.06	0.09	0.06			0.09		0.25			
新型コロナウイルス感染症	4.69	5.27	3.71	3.33	3.67	4.09	5.00	5.25	1.25	8.33	13.00
RSウイルス感染症	0.68	0.17	0.50		1.25	0.57	0.80	1.33	2.33		
咽頭結膜熱	0.25		0.70			0.43		0.33			
A群溶血性链球菌咽頭炎	2.80	1.67	1.00	1.00	0.25	1.14	12.60	2.33	1.00		9.50
感染性胃腸炎	1.14	3.33	0.70	1.00	1.00	1.29	0.80	1.33			
水痘	0.02		0.10								
手足口病	7.59	7.33	6.60		3.75	12.14	15.20	4.67	4.33	10.00	0.50
伝染性紅斑（リンゴ病）											
突発性発しん	0.41	0.50	0.30	0.50	0.25	0.86	0.60	0.33			
ヘルパンギーナ	0.52		0.40			1.00		3.67	0.33		
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.02				0.25						
急性出血性結膜炎	0.38						3.00				
流行性角結膜炎	0.50						4.00				
細菌性髄膜炎											
無菌性髄膜炎	0.25	2.00				1.00					
マイコプラズマ肺炎	1.25	3.00	3.33	1.00	1.00						
クラミジア肺炎（木嶋病は除く）											
感染性胃腸炎（ロタウイルス）											